

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

国語

国語A (領域ごと)	国語B (領域ごと)
話すこと・聞くこと 良好な結果であった	話すこと・聞くこと 該当設問なし
書くこと 良好な結果であった	書くこと 良好な結果であった
読むこと 良好な結果であった	読むこと 良好な結果であった
言語事項 良好な結果であった	言語事項 該当設問なし
(問題形式)	(問題形式)
選択式 良好な結果であった	選択式 良好な結果であった
短答式 良好な結果であった	短答式 概ね良好な結果であった
記述式 該当設問なし	記述式 良好な結果であった
(無解答率)	(無解答率)
良好な結果であった	良好な結果であった
(その他)	(その他)
正答率の高かった設問は、漢字の読み書きの問題で、多くの生徒が正答していた。また、現代仮名遣いに直す問題も全国平均を大きく上回って正答できていた。	正答率の高かった設問は、雑誌の記事から読み取る問題で、約10%全国平均を上回る正答率であった。また、図鑑の説明から読み取る問題でも、全国平均をかなり大きく上回る結果となった。
正答率の低かった設問は、書きなおした文章の意図を選択する問題であった。	正答率の低かった設問も、大阪府・全国と比べ上回っている。
無解答率は大変低く、ねばり強く取り組む姿勢がみられた。	無解答率は低く、書くことに挑戦している。

分析

- ・国語Aは大問が9つあり、分野は物語・説明文・論説・情報を読み取る問題等さまざま、頭を切りかえ集中して読み進め、正しく判断する力が要求される。また、ただ文章を読んで答える設問だけでなく、手紙の書き方や書道の書き方について問う設問も含まれている。
- ・国語Bは大問が3つあり、授業で身につけた基礎的、基本的な知識や技能を目的に応じて使う力が試される。全て最後に記述式の問題があり、書く力が要求される。考えたことや読み取れたことを自分の言葉で表現する力が必要となる。
- ・A・Bどちらも、ほとんどの問題において正答率は大阪府平均・全国平均を上回っている。特に、Bの問題では平均に比べほとんどの項目で約10%弱を上回り、大変良好な結果であった。しかし、正答率だけでいえばまだまだ高いとは言えない。作品を読んで感想を書く・発表を聞いて感想を書くなどの取り組みもしてきたが、多くの生徒が書くことに対して苦手意識を持っている。これからの取り組みとしては、教科の中だけでなく、書くことを必要とする様々な場面ですばいばいに自分の意見を書かせるよう指導していきたい。

数学

数学 A

(領域ごと)

数と式

大変良好な結果だった

図形

良好な結果だった

関数

大変良好な結果だった

資料の活用

概ね良好な結果だった

(問題形式)

選択式

良好な結果だった

短答式

大変良好な結果だった

記述式

設問なし

(無回答率)

概ね良好な結果だった

(その他)

正答率の高かった設問は、連立方程式、比例の表、確率であった。

正答率が低かった設問は、作図、近似値。

無解答率は全体的に低く、選択式はほとんどないが、短答式の問題での無解答が少しあった。

数学 B

(領域ごと)

数と式

良好な結果だった

図形

大変良好な結果だった

関数

良好な結果だった

資料の活用

良好な結果だった

(問題形式)

選択式

良好な結果だった

短答式

良好な結果だった

記述式

大変良好な結果だった

(無回答率)

良好な結果だった

(その他)

正答率の高かった設問は、数と式の情報の処理、関数の情報の処理、問題場面の考察であった。

正答率の低かった設問は、条件が適しているか、数学的な説明。

無解答率は全体的に低く、数学的な説明ができていなかった部分が目立った。

分析

今回の問題では、AB どちらも全体的によくできていると考えることができる。

ただ、無解答率の部分を見ると、記述式の部分で書けていない生徒が多いので、書くことに対して、もう少し取り組んでいく必要がある。

経年比較

全体的な傾向についての分析

- ・昨年度の平均正答率が大幅な上昇を見せたため今年度は少し数値が下がっている。
しかし経年比較すると、一昨年度までとほぼ変わらない高い数値を維持している。
- ・中でも数学Aは昨年度の正答率よりも上昇した。
- ・国語Aは過去2年間と比べ数値が下がっているため、その原因を追究し、対策をたてる必要がある。

学力高位層と学力低位層についての分析

- ・全体的に見ると、学力高位層は増加傾向にあり、高い水準を維持している。学力低位層は若干減少傾向にあるが、昨年度と比較してもその差はほぼ横ばいであり、低い数値で推移している。
- ・授業の中でのきめ細かい指導や個に応じた指導など課題をやりきる力をつける等の取り組みをさらに進めていきたい。

取り組み

学力向上に関する取り組み

*昨年度に引き続き、下記の4項目について取り組み、その成果を検証している。

朝の読書

- ・8:30の予鈴から10分間を読書の時間とし、取り組んでいる。生徒は予鈴で入室し、各自持参した本または学級文庫の本を読む習慣が確立している。
- ・8:35の本鈴に遅れる生徒はほとんどいなくなった。
- ・図書委員会とも連携し、学級文庫の本の選定や管理を行っている。
- ・昨年度に引き続き、さらに本に興味を持たせる工夫の一つとして、放送による読み聞かせを行う予定である。

授業改善の取り組み

- ・定期テスト前後に各学年の状態に応じて、チャイム着席・服装・授業準備点検などを学級委員会、生活委員会と連携して取り組んでいる。
 - ・学年ごとに「Perfect Plus Project」「G week」「CC week」と名前をつけて実施している。
- 授業が終わると次の授業の準備、チャイム着席、授業中は積極的に挙手をして発表する、私語はしない等、授業に取り組む姿勢を見直す機会でもあり、「授業を大切にす」気持ちを常に持ち、実行していくための取り組みである。

研究授業・研究協議の実践

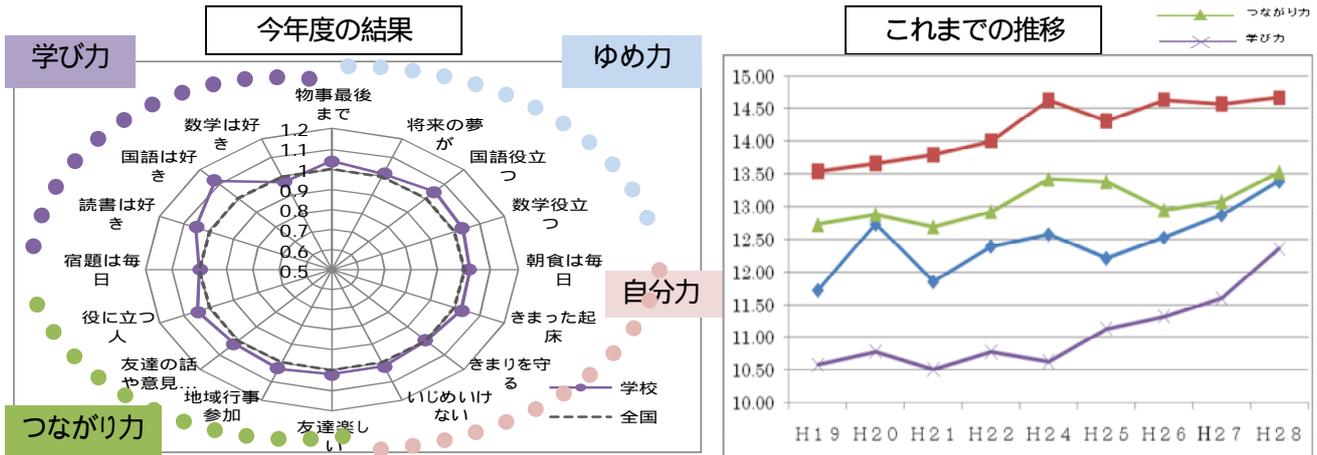
- ・年3回の研究授業
時間を設定し、全教員が参観し、その後研究協議を行っている。
- ・年間を通じて、初年度や2年目の教員の研究授業など年1回は積極的に授業見学することを奨励している。
また秋の授業交流週間においては、積極的にお互いの授業を見学することを奨励している。
- ・研究協議においては、授業についての意見交流を行っている。
- ・今年度は中学校区の小学校において6月・11月に実施される合同研究授業に、全教員で参加し、研究協議を行い学びを深める場とする。

学び~舎

- ・放課後の自主学習の場として、毎週木曜日に開いている。
- ・生徒が自分の課題を認識し、自主的に参加する場であり、毎週参加する生徒も出てきて増加傾向である。
- ・テスト前などは部活動も停止となるため、教室に収容できないほどの生徒が参加することもある。
- ・前年度から継続して参加する生徒も増え、分からないことを安心して聞ける場としても定着してきた。
- ・学び~舎では、生徒たちは担当の教員やボランティア教員から学習支援を受けている。

子どもたちに育みたい力

◆ ゆめ力
■ 自分力
▲ つながり力
× 学び力



分析

昨年減少傾向にあった自分力も含め、今年度はすべての力において高い数値を示している。

学習状況調査をみると、

- ・朝食を食べている生徒が86%と昨年に比べ少し低下したものの全国平均を上回っている。起きる時間・寝る時間が決められているなど、基本的な生活習慣が身に付いている。これは保護者の協力が大きいと思われる。昨年同様、予鈴登校はきちんとできている。
- ・83.9%の生徒が物事を最後までやり遂げ嬉しかった体験をしており、自尊感情も高く、人の役に立ちたいと考えている生徒がとて多かった。また昨年度は全国平均を下回った「将来の夢や目標」についてもわずかではあるが全国平均を上回る結果となった。
- ・学校生活に関しては「友だちにあうのが楽しいと思いますか」という問いに対し82.1%、「学校で好きな授業がありますか」という問いに61.2%と全国平均を大きく上回っている。これは学級みんなで協力し楽しさを感じた経験が多いことや友だちとの関わりの中で、友達の話や意見を最後まで聞くことができていることも要因の一つであると考えられる。

またいじめに関しても「どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに、「はい」という肯定意見が79.5%と全国平均を上回っている。

・昨年度課題であった「国語は好きですか」という問いに、大きく数値が上昇した。その要因は今年度国語の学習が将来に役立つと考える生徒の割合が過半数を超えたことがあげられる。

学校生活において「きまりを守る」という項目は全体的に見て低い数値にあるので、家庭地域とも連携をはかりつつ改善していきたい。

取り組み

つながり力

- ・合同授業研から部活動や生徒会活動での縦割り集団づくりについて学んだ。
- ・ユニバーサルデザインの観点から、『本時の目標』『ポイント』のプレートを各教室に常設し子どもたちの学びにつなげている。また教室内の掲示物についても授業アンケートや教室のレイアウトなどを通じて教師間で交流している。[学び力も含む]
- ・教師の学級集団づくり・班活動・委員会活動・リーダーの育成についても取り組みを進めていきたい。

自分力

- ・いじめに対する「どんな理由があってもいけない」という意識は昨年に引き続き、高かった。これは道徳の授業実践や学活の取り組みが成果を上げているものと思われる。「きまりを守る」という観点に力を入れながらさらなる取り組みを進めたい。

ゆめ力

- ・学習や行事を通して、最後までやり遂げた時の達成感を味わっている。夢や目標を持てるようにがんばりたいと考えている生徒も多い。自分の目標へ向かう進路決定や2年生で行う「福祉体験」を通じて、視野を広げ、体験をしていく中で、自分の将来の夢や目標をもつことへの手がかりをつかんでほしい。

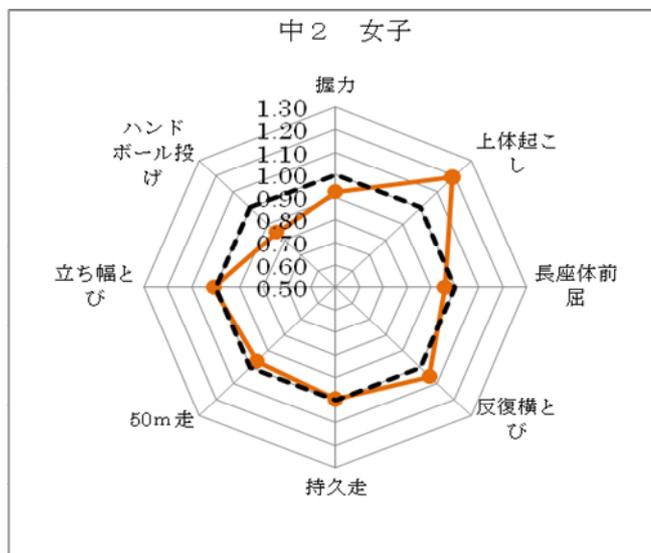
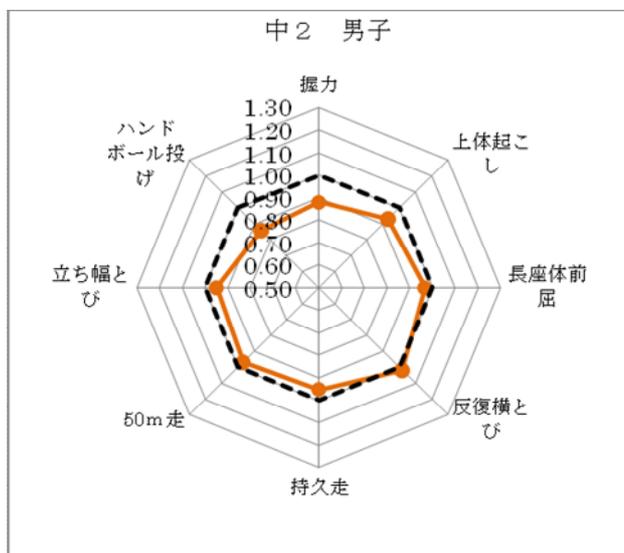
学び力

- ・朝の読書が定着してきたこともあり、読書は好きと思う生徒は年々増加している。また国語が好きという生徒の水準が、今年度大きく上昇した。国語への関心をさらに高めてほしい。
- その一方で数学が好きという生徒が昨年同様低水準のため、教師間で授業力を高めるよう意識しつつ、授業やさまざまな学びを通じて数学への関心も高めてほしいと思う。

体力

男子(中2)

女子(中2)



分析

昨年度に比べ全国平均を下回る項目が多く、グラフの形も昨年(中1時)とほぼ変わらない結果となった。

【男子】8項目中7項目が全国平均を下回る結果となった。特に、ハンドボール投げは全国平均を大幅に下回り、巧緻性や瞬発力に欠ける生徒が多いことが分かる。投げる動作をあまり経験していない生徒が多く、ボールを投げる動作がスムーズに行えない生徒もいるので、授業の中でボールを投げる経験をさせる必要がある。全国平均を上回った反復横とびに関しては現状を維持しつつ、残りの7項目の記録の向上を目指し、8項目のバランスを整えていきたい。

【女子】8項目中5項目が全国平均を下回る結果となった。特にハンドボール投げは全国平均を大きく下回る結果となり、それに関連するハンドボール投げに必要な巧緻性や瞬発力に欠ける生徒が多いことが分かる。ボール運動の経験が少ないためか投球動作が不安定な生徒が多いので、授業で経験を積ませていきたい。あと少しで全国平均に到達しそうな項目が多いので、平均を下回った項目を伸ばしつつ、全体的な記録の向上を目指していきたい。

取り組み

体育の授業は体育委員が主導となって行う部分がある。ランニング、ラジオ体操、補助運動、筋力トレーニングは決まった形があり毎回行っている。しかし、分析をみると体力項目に偏りがあるとわかった。従来行ってきた運動だけでは補えきれないものもあるので、男女それぞれが大幅に全国平均から劣っている体力項目の改善をまず考えていきたい。男女ともにハンドボール投げが劣っているため授業で取り扱う球技を、投げる動作を含む球技を取り扱う必要がある。その中でどのように身体を使ったら上手くボールを扱えるのか、実際に体験しながら身につけさせる取り組みも重要である。もちろん大幅に下回った体力項目だけを徹底的に伸ばすのではなく、バランスのとれた体力向上を目指していくのでその他の体力項目についても各学年の課題と照らし合わせながら、継続的に取り組める運動を授業内に取り入れていく工夫を行わなければならない。よってバランスのとれた体力を目指す点から、授業で取り扱う競技のバランスを考える必要がある。カリキュラム編成時にも前年度の体力分析を用い、よりその学年の課題に迫る授業を考えて取り組んでいこうと考えている。

2

3年間の計画

	(各校)	(各校)	(ブロック共通)
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	・1人1人を大切にした授業づくり ・生徒がつながり、自他を認める集団づくり	調和のとれた体力を身につける。	中学校によりスムーズに移るための指導の継続と発展
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> 朝の読書 学び～舎（放課後の自主学習） 研究授業・研究協議の実践 授業改善の取り組み 授業交流週間（6月・11月） 校内研修会（目標に準拠した評価についての研究） 	<p>男女ともに全国平均を大幅に下回った項目の記録を向上させる。</p> <p>【男子】柔軟性 授業の準備運動にストレッチ運動を追加する。相手の状態にも気づいて欲しいので、2人組の運動を追加し、柔軟性の向上に取り組む。</p> <p>【女子】投力 カリキュラムのバランスを取る。球技の授業時に体の使い方を指導に重点を置く。またウォーミングアップ時にボールを使用した運動も適宜取り入れていく。</p>	<p>連携担当者会議の開催 連携コーディネーター教員による「小中学校間いきいきスクール」の実施 学校事務の共同実施 行事を共有し合う 各校の研究授業に参加</p>
平成27年度	<p>26年度の取り組みを継続しつつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究授業の回数を増やす。 目標に準拠した評価の確立をめざす 朝の読書の活性化（放送による読み聞かせ） 	<p>前年度に重点的に向上を目指した項目の取り組みを継続させつつ、カリキュラムのバランスを整える。</p> <p>【男子】柔軟性 授業の準備運動にストレッチ運動を追加する。相手の状態にも気づいて欲しいので、2人組の運動を追加し、柔軟性の向上に取り組む努力を昨年度から継続して行う。</p> <p>【女子】投力、握力 引き続きカリキュラムのバランスを取る。球技の授業時に体の使い方を指導に重点を置くだけでなく、日頃の筋力トレーニングを工夫して体力の向上を目指す。</p>	<p>26年度～を継続し、中学校ブロック合同研究授業の開催 教科・養護・支援などの部会を開催（連携カリキュラムの検討）</p>
平成28年度	<p>27年度の取り組みを継続しつつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだことから、自分の意見を持ち、それを発表する場を設定する。 	<p>各学年の課題に応じた取り組みを授業のはじめに行うウォーミングアップの中に取り入れ、総合的な体力の向上を図る。また、全国平均との差を前年度よりも小さくするために継続した取り組みができるよう、体力テストの分析を体育科全体で行った上で、次年度のカリキュラム編成を考える。</p>	<p>27年度の～を継続し、ブロック連携カリキュラムの作成 中学校ブロック合同研修会の開催 小中連携担当者会議を定期的に行う。</p>